



土屋 利絵
(改革みしま)



誰もが安心して歳を重ねていくために

◎ 自宅などで安心して人生を終えていくことを考えると、在宅医療を充実させていくことが必要となる。訪問診療の状況について伺う。

▲ 市内24医療機関が訪問診療に対応しており、令和2年4月の訪問診療利用者数は3年前と比べ78人増加し595人で、県地域医療構想の提供見込み量を上回る。サービス付き高齢者住宅等への往診増加の影響もあるが、在宅医療に熱心な医師が多いと感じている。



災害時に誰一人取り残さないような取り組み

◎ 災害時に誰が助けるのか考える個別支援計画の作成が急務となる。そのためのコーディネーターの設置について伺う。

▲ 個別支援計画の作成の推進にあたり、災害対策基本法が改正されたことに伴い、更に効果的な作成手法や、災害時に被害者を出さないための地域における具体的な避難支援体制について、専門職の活用を含めた国の支援制度などを十分研究していく。

他の質問事項
経済的に困っている方への支援金の広報



堀江 和雄
(公明)



三島駅南口東街区の2025年に向けて

◎ マンション棟などは、デジタル化を見据え、高次都市機能を担うと思うが、ミサワホームJVからどのような提案があるのか。

▲ 新型コロナウイルス感染症やICT技術の進展などの社会情勢の変化を踏まえ、在宅勤務に対応した住宅や、シェアオフィスなどの導入の可能性が検討されている。導入に伴うコストも勘案しつつ検討を進め、令和3年の秋頃には、事業の検討状況についてご報告したい。

電子市役所の利便性向上とこれから

◎ 市民の利便性向上・来庁不要などを目指し、マイナンバーカードを活用した手続を増やすなど、今後の電子申請拡充について伺う。

▲ 国の自治体DX推進計画に基づき、特に国民の利便性の向上に資する子育てや介護などに関する31手続をマイナンバーカードからマイナンバーカードを用いてオンライン手続ができるようにするなど、さらなる電子申請手続数の拡大を図っていく。



他の質問事項

小中学校のいわゆる置き勉の現状について



服部 正平
(日本共産党議員団)



ごみ最終処分場第一埋立地の安全性について

◎ 市道祇園原線沿線における赤褐色の溢水と第一埋立地の関連について、住民が長年不安を抱いている。公的機関での調査は可能か。

▲ 実施した水質検査は、第一から第三までの全ての埋立地から発生した浸出水の検査である。地元住民の皆様に対し、関係性についての疑問を解消したいと考えるため、地元自治会の意向を確認し、必要に応じて公的機関での調査を実施する。



公契約条例制定に向けた進捗状況について

◎ 平成29年11月議会答弁で、「公契約条例」は意義深く重要であり、県の動向に注視し、調査研究を行うとされたが、その進捗状況は。

▲ 調査研究の結果、公契約条例には大きく3種類あることがわかった。また、県東部都市入札・契約担当情報交換会に積極的に参加し、各市の考案方や課題の研究も行った。令和3年の県の条例化を踏まえ、県内市町の動向を注視し、歩調を合わせる必要があると考える。

他の質問事項
オリ・パラ開催時の感染症対策について



沈 久美
(政和会)



ふれあいさわやか回収事業の拡充を目指して

◎ ごみ出しは高齢者や障がい者その他、心の病を抱える方や子育て世代にも困難である。当事業の見直しを図り、対象を拡充できないか。

▲ 現状、介護サービス利用者や障がいがある方以外に、ごみ出しが困難な方の存在を把握していないため、関係部署と連携し、民生委員の皆様などのご協力をいただく中で、ごみ出しが困難な方の把握や支援の可能性等を調査研究していく。



令和流「文武両道」への理解と実践を求めて

◎ 継続的な運動経験は、体力・気力・社会性の獲得等豊かな人生の下支えとなる。中学校運動部入部状況と入部促進の取り組みを伺う。

▲ 市内中学校の今年度の運動部入部状況は71.6%である。生徒が自分に合った部活動に取り組むことができるよう、様々な部活動を見学できるようにしたり、体験活動を多く取り入れたりするなど、やりがいや楽しさが伝わるように工夫している事例がある。

他の質問事項

南二日町グラウンドへのラグビーゴール設置



野村 諒子
(緑水会)



三島市子どもの権利条例制定への取り組み

◎ 子どもの権利を保障し、子ども達も心も体も健やかに成長することができるように、三島市子どもの権利条例を制定できないか。

▲ 子どもの権利条例の制定は、子どもの権利に関する条約で保障されている4つの権利について、子どもを含めた多くの立場の方からの幅広い意見集約が必要であることから、実現のための気運の醸成といった流れや時期等を慎重に見定めながら研究する。

自宅等での避難防災について

◎ 大規模災害時には、多くの市民が自宅等で避難することを想定し、インフラが停止した中での在宅避難を重視した防災訓練は可能か。

▲ 水道、下水道が機能不全となった状況を想定し、自主防災組織リーダー研修会で携帯トイレの使用方法について実技訓練を行っている。災害時のトイレ対策をテーマとした出前講座を行うとともに、使用方法を三島市公式ユーチューブチャンネルにて配信している。



藤江 康儀
(改革みしま)



ヤングケアラーの支援について

◎ ヤングケアラーに対する学校関係者の指導啓発についてどのように行っていくか伺う。

▲ 今後、新たな調査報告や支援マニュアル等を活用し、定例の校長会議や教頭会議をはじめ、生徒指導担当者や養護教諭の研修会の折に指導啓発していく。その上で、すべての教職員が児童生徒を見る目を養い、目の前の変化に気付くことができるようにしていく。

新型コロナウイルス感染症に対する備えと支援

◎ 集中豪雨時等の避難所における新型コロナウイルス感染症の対策および備えについて伺う。

▲ 国、県から示されたガイドラインに基づき、感染者等と一般の避難者の動線などが重ならないよう避難所のレイアウトを見直した。また、避難所内における感染を防止するため、ワンタッチパーテーションやマスク、手指消毒液などをすべての指定避難所に備蓄した。

